

公文書館だより

第36号

令和3年3月8日



「祭礼図」(AH385-6 部分)

秋田市八橋本町にある日吉八幡神社は、江戸時代には町人町である外町の総鎮守として鎮座しました。町人を守り続けたこちらの神社は「山王さん」と呼ばれ、人々の信仰を集めてきました。

元亨二年(一三三二)に外旭川の笹岡の地に造営された後、上新城の五十丁、飯島、八橋狐森、そして寛文二年(一六六二)に八橋の現在地にいたるまで、四回遷宮しています。

日吉山王の縁日にあたる四月の中の申の日と、八幡宮にちなむ旧暦八月十五日に祭礼が行われました。

そして、祭礼の当番である統人へ選ばれることは、外町の商人にとって最大級の名誉でした。当時の祭礼の行列については、「山王祭礼行列帳」(資料番号 A一七六一六)にその詳細が記されています。

こちらの図は、今年度の企画展でも展示した旧暦八月の祭礼を描いた史料で、全長約7mにおよびます。祭礼の時には、外町から八橋の社殿に向かい、久保田城下一帯を神輿が巡行し、城下一と言われほどの大変賑やかな祭礼でした。城下の賑わいの様子や行列、神輿、傘鉾などの様子が大変生き生きと描写されています。

公文書館 利用案内

◆開館時間

平日 9時～19時
土日祝日 9時～18時

(書庫内資料の利用申請は17時30分まで)

◆休館日(令和3年度)

毎週水曜日

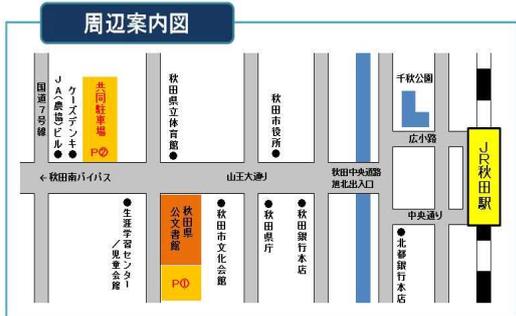
年末年始 12月28日～1月3日

特別整理期間

6月10日～6月15日

12月2日～12月7日

(休館日についてはウェブサイトを、または当館内の掲示等で御確認ください)



編集発行：秋田県公文書館 (秋田市山王新町14-31 県立図書館と併設)
電話 018(866)8301 FAX 018(866)8303
URL <https://www.pref.akita.lg.jp/kobunsho/>
Twitter公式アカウント https://twitter.com/Akita_Archives

県政映画上映会

秋田昭和の時代 映像アーカイブ

県政映画は、昭和三十〜五十年代に県が制作した広報映画です。

当館では、この県政映画をスクリーンで観賞いただく上映会を毎年企画しており、今年度は第一回を八月二十八日（金）に、第二回を十月三十日（金）に、当館多目的ホールで開催しました。



上映作品から【県庁舎の建設】

第一回上映会では、八月二十九日の「県の記念日」の関連企画として、築後満六十年を迎えた県庁本庁舎・議会議棟の建設工事と完成当時の映像、昭和三十年代〜四十年代のニュース映像から秋田がもつと賑わっていた瞬間の県内の映像を選んで特別編集したもので、計五十四名の方にご観賞いただきました。

第二回上映会では、昭和三十年代〜五十年代の「文化の日」にちなんでニュース映像や県政各分野の施策紹介、菅義偉内閣総理大臣の郷里・旧雄勝町に



上映作品から【県政ニュースNo.53】

関連した作品など七作品を上映し、計六十二名の方にご観賞いただきました。

県政映画は、この上映会以外にも、開館日には毎日、当館二階の閲覧室において、月替わりで数作品ずつDVDの映像をモニターで放映しています。また、特別閲覧室では、過去の作品リストの中からご希望の作品をお選びいただき、DVDの映像を小型モニターで視聴することができます。

当館へご来館の際は、懐かしい昭和の秋田の映像資料をどうぞご観賞ください。

企画展

所蔵資料にみる秋田の行事とくらし

前期 八月二十四日〜九月二十二日 後期 十月三十日〜十二月一日

今年度の企画展では、当館所蔵資料の中から、各地の行事とくらしに関する資料を展示しました。

今回の展示で中心となった資料が「風俗問状答」です。幕府の御用学者からの習俗に対しての質問に、藩が回答した資料です。展示では竿燈やカマクラ等を中心に展示しました。他館所蔵のものも含めて五種類ある秋田の「風俗問状答」を比較したコーナーも設けました。

他にも、現在も行われている土崎や角館のお祭りの当時の様子について、絵図や日記等から紹介したコーナーや、江戸時代の外町の総鎮守であった日吉八幡神社に関する記録や図から、祭礼に参加する人々の生き生きとした様子を展示して御覧いただくことができました。

今年度は、各地での行事が軒並み中止を余儀なくされました。そうした中で、本展示が今までの行事を見つめ直し、新しい発見につながるきっかけになれば幸いです。

<展示コーナー構成>

- 古文書からみる秋田の年間の行事
- 眠り流し(竿燈)
- 眠り流し(能代)
- 各地の行事
- 正月行事
- カマクラ
- 日吉八幡神社の記録
- 近代資料にみる行事
- 現代の秋田の行事
- 風俗問状答の世界



公文書館講座

例年の「公文書館講座」では、夏に「古文書解読講座」、秋に「歴史講座」を開催してきました。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、開催計画を見直し、回数と募集定員を大幅に減らした上で、「古文書解読講座」に「歴史講座」を加味した内容で一本化しました。初級者向けに平易な字の古文書を教材としましたが、各回平均十六名の参加がありました。また、「出前講座」では、秋田市

●令和2年度 公文書館講座一覧●

- ◆公文書館講座 於：秋田県公文書館 多目的ホール
 - 9/11 (金) 古文書解読入門 一返読文字を中心にー
 - 10/9 (金) 秋田藩士の日記を読む
 - 11/27 (金) 黒印御定書を読む
- ◆出前講座
 - 11/13 (金) 映像にみる戦後の復興秋田
(映像資料で振り返る 戦後～昭和の秋田市復興の歴史)
於：秋田市南部市民サービスセンター 別館 (南部ひまわり学級)
 - 2/25 (木) 古文書で読む「生類憐みの令」と秋田
於：にかほ市象潟公民館



とにかほ市において、県政映画の上映や古文書解読を行い、合わせて五十三名の参加がありました。感染予防のため、会場の三密を避け、換気を行い、消毒を徹底するなど昨年度と大きく異なる条件で行わざるを得ず、参加者の皆様には不自由をおかけしました。参加者の皆様からは、当館所蔵資料への関心や、古文書解読への学習意欲の高さを感じさせられました。そのような当館への御期待に、今後も方法を工夫しながら応えていきたいと思えます。

公文書の引渡し・公開状況

当館では、歴史資料として重要な公文書等の保存と利用のため、県の各課所で作成された公文書の引渡しを受けています。昨年度は約三千件の文書を受領し、これらの公文書は当館の定める基準によって評価・選別を行い、継承すべき県政資料として利用者への公開に備え、当館の書庫に保存します。

保存した公文書のうち、簿冊完結から三十年を経過したものは、公開向け個人のプライバシーを侵害する情報の有無を主眼に点検し、目録作成・データベース登録などの作業を行います。今年度は八百十四件の公文書についてプライバシー点検を行い、三百三十一件が公開決定とな

<引渡・保存状況>

引渡元	引渡年度	引渡		保存		保存率
		件数 (冊数)	件数 (冊数)	件数 (冊数)	件数 (冊数)	
知事部局	令和元	2,944 (5,232)	337 (645)	11.4%		
行政委員会	平成30	29 (62)	3 (28)	39.5%		
	令和元	14 (27)	14 (27)			

<令和2年度新規公開状況>

新規公開の候補とした公文書		814件
内訳	公開と決定	331件
	非公開と決定 (一部非公開を含む)	483件
	一部非公開 (※)	35件
	非公開 (※)	448件

※ 非公開とすべき年数が満了した時に公開となる

り、四百八十三件（一部非公開を含む）が非公開となりました。なお、非公開となった公文書も非公開期間が経過すれば公開となります。公開対象となった公文書は閲覧室カウンターにおいて閲覧請求の上、御覧になれます。どなたでもお気軽に御利用ください。

国立公文書館 アーキビスト認証について

アーキビスト (Archivist) とは公文書館の専門職員を指し、諸外国の多くでは国家資格制度が整っていますが、日本には公的制度がありませんでした。令和2年度に国立公文書館において公的認証制度が発足し、知識・実績・研究能力等を審査され、全国で一九〇名が認証されました(秋田県四名、内当館職員二名)。公文書館は民主主義社会の記憶装置として、県民の知的財産である公文書や古文書などを保存し利用に供する重要な責務を担っています。アーキビストは、専門的な知見と実績から公文書館の中核となりますが、当館では今回の認証合格者を始め職員全体で研鑽を積み、その社会的責務を担っていきます。

市町村公文書・歴史資料 保存利用推進会議

市町村公文書・歴史資料保存利用推進会議は、県内の市町村が作成した公文書や地域の歴史的記録である古文書を地域住民共有の知的財産として、適切な保存・利用等に関する情報の共有化を推進することを主な目的としており、今年度は十一月二十日（金）に開催しました。

基調講演では、東京大学経済学部資料室学術支援専門職員（鹿角市古文書整理委員会委員長）富善一敏氏をお招きし、「民間史料を残し、活かし、未来に伝える―全国各地でのささやかな経験から―」と題してお話しいただきました。



富善氏と秋田との関わりは、平成二十五年三月に、東京大学大学院経済学研究科古文書ゼミが行った、鹿角市旧関善酒店の文書調査

に始まります。

富善氏は、始めに近年の民間史料の調査方法の変化についてお話しされ、その後富善氏がこれまでに関わってきた熊本県天草史料調査会、(天草アーカイブズ)夏期資料調査事業、鳥取県伯耆町矢田貝家文書調査及び沖縄県伊江島阿波根昌鴻資料調査会の事例について、多数のスライド画像を用い講演されました。

富善氏は最後に、①事例はいずれも現状記録・概要調査から内容調査というアーカイブ学的文書調査論に基づく段階的調査であること。②調査方法には文書館事業直轄型、大学・行政・住民三者連携の住民参加型、資料所蔵者の事業への密接協力型があること。③地域住民の方々と共に参加・連携し、継続的な調査とその成果を発信することが地域文化の振興に対する貢献と、歴史資料を取り扱いうる人材育成となること。以上①②③を踏まえて、「民間史料を残し、活かし、未来に伝える」活動につながっていければ、とお話されました。

基調講演後、横手市から公文書館の開館と今後の課題、能代市から文化財・歴史資料の整理の現状に関する事例が報告されました。

刊行本紹介 岡本元朝日記 第七巻

江戸時代中期の秋田藩家老である岡本元朝の日記の翻刻本第七巻が刊行になりました。今回は宝永六年（一七〇九）正月から同七年閏八月（太陰暦で暦と実際の季節を調節するため、一年を適宜十三ヶ月とした）までの日記を収録しています。

第七巻では宝永六年正月十日に五代将軍徳川綱吉が死去。同月には「生類憐れみの令」により設置されていた四ッ谷・中野の犬小屋が撤去され、五月には六代将軍に徳川家宣が就任。九月には密入国した宣教師シドッチが江戸に護送され、新井白石の尋問を受けるなど、新しい時代に切り替わりつつある時期の様子について岡本元朝が多岐に渡る記録を書き残しています。

『岡本元朝日記』第七巻は、既刊同様に消費税抜き四千円で頒布しております。左記までお問い合わせください。

秋田活版印刷株式会社

〒〇一〇九〇一
秋田市寺内字三千刈一〇〇一
電話〇一八（八八八）三五〇〇

令和三年度 行事予定

◆企画展

（前期） 8月26日～9月21日
（後期） 10月28日～11月30日

◆公文書館講座

●古文書解読講座

6月25日／7月2日・9日・16日

●歴史講座

（第一回）9月10日（第二回）10月22日

◆県政映画上映会

（第一回）8月27日（第二回）11月2日

◆古文書相談日

毎月第2・第4火曜日を中心に実施

※日程等については、変更になる場合があります。ウェブサイトまたは当館内の掲示でご確認ください。

ツイッターのご案内

当館では、ツイッターによる資料やイベントの紹介などの広報活動を行っております。是非ご覧ください。

（アカウント名） @Akita_Archives
（検索）「ツイッター 秋田県公文書館」

スマートフォンの方はこちらから

QRコード

